

幼児教育研修（年齢別担任研修5歳児 第2回）

受講者数 72名

日時 令和4年7月19日（火）オンライン研修

講師 明治学院大学 心理学部 教育発達学科 特命教授 田代 恵美子 氏

【内 容】～子どもの発達と保育者の関わりについて～

5歳児保育のポイントの1つである「考える機会をつくる」時、意識して欲しいのは、「みんなで考えることが楽しい」と感じられるような投げかけをすることから始めることです。考える形を作ったり、難しい内容を提起するのではなく、楽しさを味わえるためにはどうすればいいのかを保育者自身も考えていきましょう。

【受講者の感想】*** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- ・既存の玩具だけでなく子どもが自分で考えて試したり工夫したりしながら遊びを作り上げていけるような教材を用意し、子どもが主体的に遊びを展開していくことが学びに繋がると分かった。
- ・子どもの援助のポイントとして、5歳児と言ってもまだまだ未熟であるということを認識し、保育者も遊びの一員として考えを投げかけ、一緒にイメージを膨らませていくことが大切だと学んだ。
- ・活動の中で子どもの思いや気付きが出てくるのを待つのか、それとも経験してほしいことを仕掛けるのか保育者の関わり方や声掛けのタイミング1つで遊びや友だち関係を広げるチャンスとなる。様々な活動の中での読み取りの大切さや難しさを学ぶことができた。
- ・子どもたちに考える機会を作り、考えることが楽しいと思える経験をさせていきたい。また目的や見通しを持たせながら保育士も一緒に楽しみ遊びを充実させていきたい。
- ・毎年繰り返す色水遊びでも子どもにとっては初めての経験になるので、どんな見通しをもてばいいか、再検討する必要があると学んだ。1回でうまくやろうと思わず、思うようにいかなくても2回目、3回目で成功すればよいと考えて準備したい。
- ・講師の「何を経験させたいのか？何を楽しませたいのか？子どもの思いや気持ちを汲み取ることが大切である」という言葉が心に残った。この時期この季節だから毎年やるのではなく、子どもを理解した上で目の前にいる子どもたちは何に心が動いているのかどんな経験をさせてあげたいのかを考えていきたい。
- ・具体的な言葉で実際の子どもの姿を思い浮かべながら考えることができた。メンバーが変わると興味関心が変わるということやそこにいるメンバーが何を楽しんでいるのか、友だち関係はどうか、援助のタイミングはどうか、読み取りのポイントがとても分かりやすかった。
- ・砂のケーキに泡でデコレーションする事例や魚釣りの海作りの事例から子どもたちが何に面白みを感じているかを考えることで、どこに力や時間を費やす（何を試行錯誤する）のかが見えてくるという話がとても分かりやすかった。
- ・実際に動画や写真を見ながら解説や改善点、保護者の援助の仕方、タイミングや声掛け等を知ることができ、分かりやすくとても勉強になった。